



2025 年 8 月 7 日

各 位

会 社 名 株式会社フルヤ金属
代表者名 代表取締役社長 古 屋 堯 民
(コード番号：7826)
問 合 せ 先 取締役管理本部長 西 村 勉
電 話 03-5977-3377

中期経営計画の概要に関するお知らせ

2025 年 8 月 7 日開催の取締役会において 2026 年 6 月期から 2030 年 6 月期を対象とする中期経営計画「KFK ビジョン 2030」を以下の通り策定しましたのでお知らせいたします。従来の中期経営計画はローリング形式でしたが固定形式へ変更し、計画期間を 5 年間へ変更しましたのでお知らせいたします。

独自に培ってきた技術力で高付加価値の創出することで不確実な時代を乗り越え未来を切り拓くことをスローガンに掲げ、稼ぐ力を強化し、新たな柱の創出により持続可能な成長基盤づくりを推進します。

記

1. KFK ビジョン 2030 の位置付け

当社は従来から 3 年間の中期経営計画をローリング形式で策定していましたが、当社を取り巻く事業環境の不確実性が高まっている状況や研究開発において長い考察を要する題材も増えてきていることから、中期経営計画を固定形式とし目指す姿を明示し対象期間も 5 年間とすることで確実に研究開発を実現するための基本戦略を定めました。コア技術の更なる進化に加えて各研究機関との連携やシナジーを追求し新規成長分野に積極的に進出し、飛躍の実現に挑戦して参ります。

2. 中期経営計画における目標・指標

＜損益・定量目標＞	＜財務指標＞
2030 年 6 月期目標 ・売上高 1, 5 0 0 億円 ・経常利益 2 0 0 億円	2030 年 6 月期目標 ・ROE 1 0 % 以上 ・ROIC 8 % 以上 ・配当性向 2 5 % 以上

配当性向は 25% 以上を基本としたうえで、当期利益を生まなかった場合等、配当方針の見直しを検討します。

3. 基本戦略

(1) 稼ぐ力の強化

- ① 不確実な環境においても確実に基礎収益を稼ぎ出す基盤の強化

② 「創って、造って、売る」の高速回転の基盤を定着させる

(2) 新たな柱の創出

① 5本柱の強化

② 更なる成長分野の追求と新たな柱の構築

(3) 持続可能な成長基盤づくり

① 持続可能と高い適応力を備えた組織づくり

② マテリアリティへの取り組み

なお、詳細につきましては添付資料をご参照下さい。

以 上

KFK フルヤ金属

KFK ビジョン2030

2025年8月7日

株式会社フルヤ金属
(プライム7826)



目次

1. 中期経営計画2027振り返り

2. *KFK ビジョン2030*

2-1. 策定方針

2-2. 基本戦略

2-3. 目指す姿

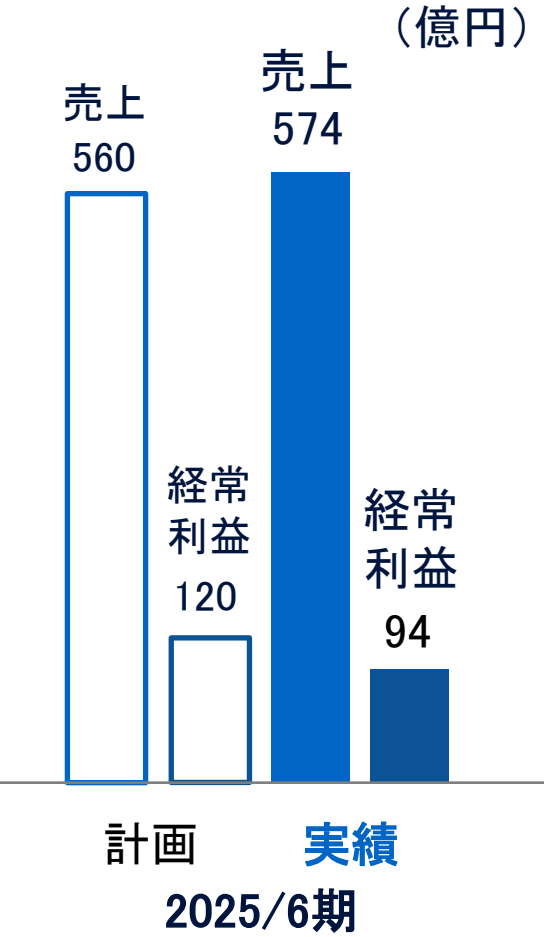
2-4. 重要課題

1. 中期経営計画2027振り返り

中期経営計画2027振り返り① 業績

半導体市場本格回復、及び新製品収益化の遅れにより、トップラインの拡大に課題

売上・経常利益 *連結



主要前提	イリジウム (US\$ / toz)	ルテニウム (US\$ / toz)	為替 (¥ / US\$)
計画	4,500	400	145
実績	4,190*	490*	150

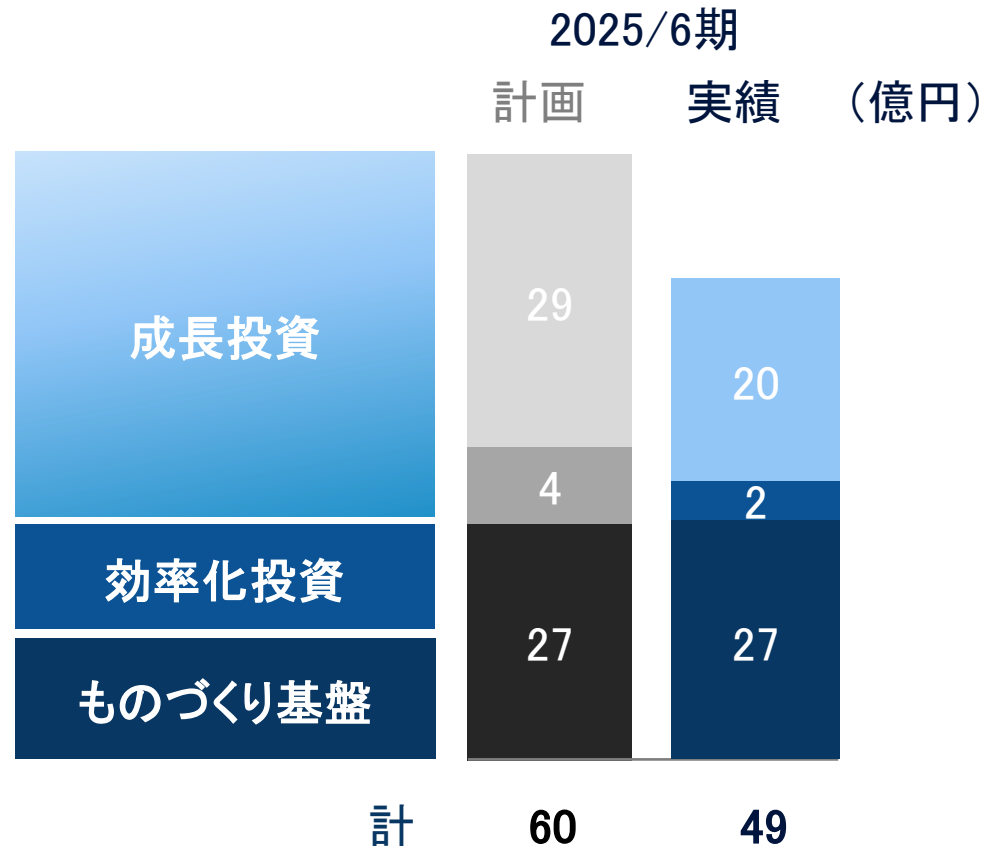
*イリジウム・ルテニウム相場はNYD Mean年間平均値参照

セグメント	計画 (億円)	実績 (億円)	差異 (億円)	売上増減要因
電子	88	59	▲29	- データセンター投資拡大に伴う光アイソレータ向け製品の需要増 - SAWデバイス市場は競争激化
薄膜	102	113	+11	- 生成AIの普及拡大に伴うデータセンター用HDD市場の回復 - AIScTGの本格上市開始
サーマル	67	49	▲18	- 新規販路の拡大 - 半導体市場本格回復の遅れ、開発品収益化遅れ
ファインケミカル・リサイクル	274	263	▲11	- 電極用途での堅調な需要 - 世界的な水素市場立ち上がりの遅れ
サプライチェーン支援 他	29	90	+61	アジアを中心とした堅調な需要を取り込み

中期経営計画2027振り返り② キャピタルアロケーション

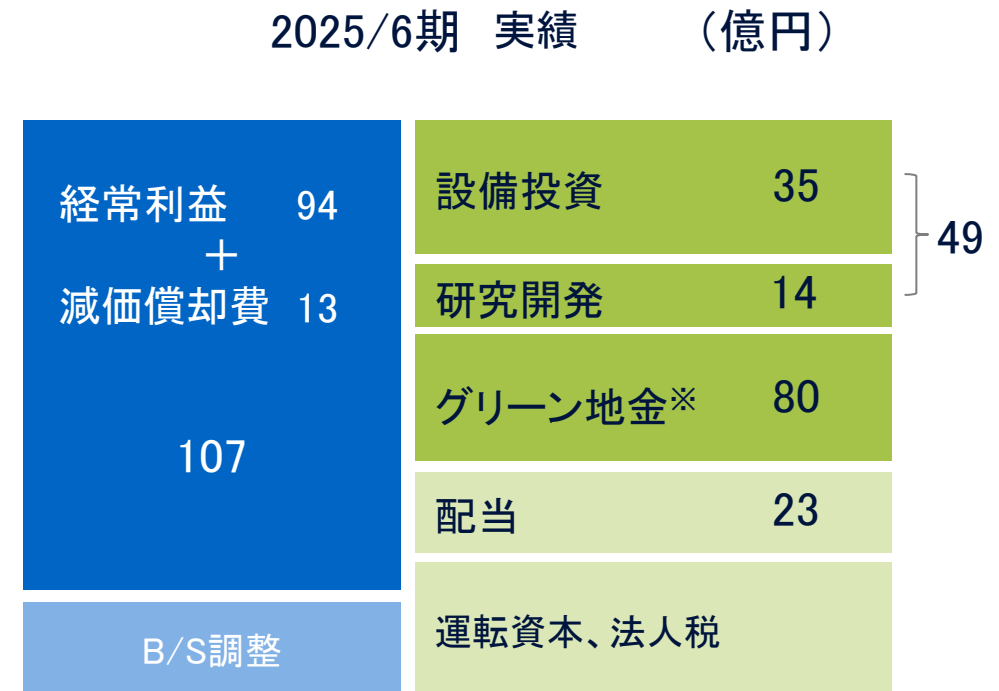
設備投資・研究開発

成長投資を支えるものづくり基盤を中心に、概ね予定通りに進捗



利益の戦略的配分

成長事業への積極的な設備投資、次世代製品の研究開発、株主還元を戦略的に配分

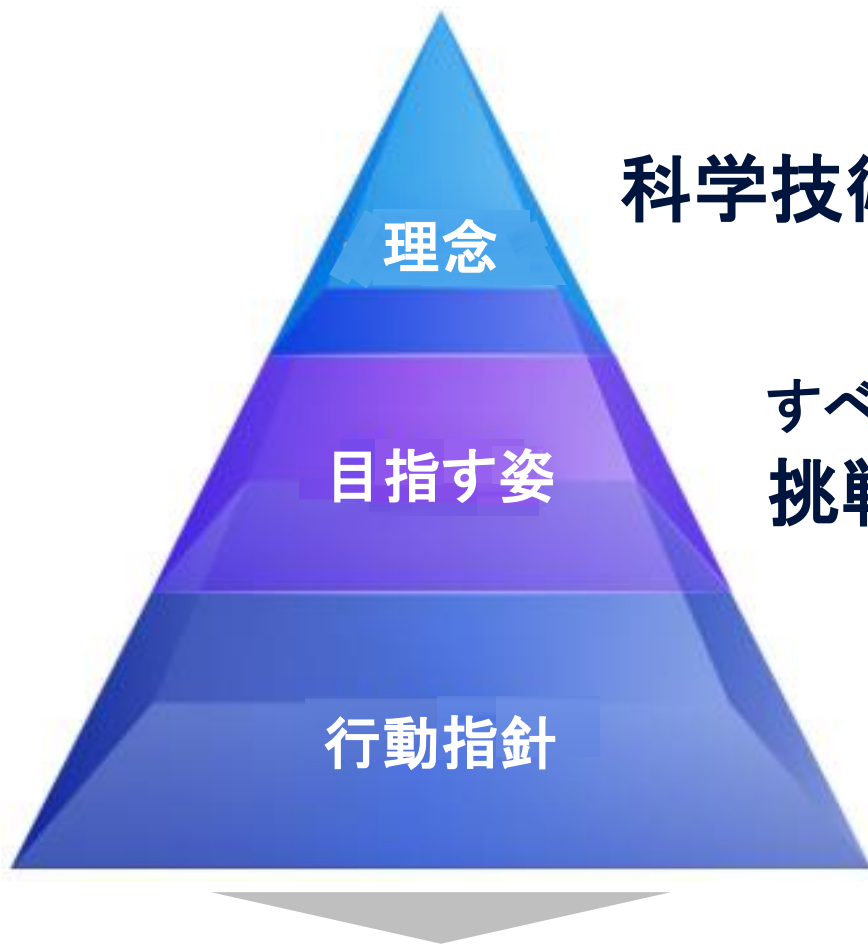


※デジタル・グリーン向け貴金属原材料

2. *KFK ビジョン2030*

フルヤ金属理念

【企業理念体系】



KFK ビジョン2030

科学技術の発展に寄与し、社会の繁栄に貢献する

すべての面でイリジウム、ルテニウムで世界No.1
挑戦し続ける創造型企業

無限の可能性に
先見力と創造力で対応



「独自技術で高付加価値を創出」
「不確実な時代を乗り越え未来を切り拓く」

事業環境認識と“KFK ビジョン2030”の策定

当社を取り巻く事業環境の変化

地政学リスク

- 大国による覇権主義対立
- 軍事衝突の頻発、世界経済への影響



環境対応への逆風

- 政策変更による地球環境施策の後退
- 世界的な水素エネルギー等への投資・開発遅れ



サプライチェーン

- 資源サプライチェーンにおける安全保障リスク



市場

- 生成AIの急速普及
- 貴金属(特にイリジウム)相場の不透明感



不確実性の大幅な高まりを踏まえ、
従来の中期経営計画(3か年・ローリング)ではなく
“KFK ビジョン2030”とそれに向けた基本戦略を再確認するアプローチ

KFK ビジョン2030 と基本戦略

「独自技術で高付加価値を創出」「不確実な時代を乗り越え未来を切り拓く」

戦略的な貢献領域



基本戦略

稼ぐ力の強化

- ・不確実な環境でも確実に基礎収益を稼ぎ出す
- ・“創って、造って、売る”を高速回転

新たな柱の創出

- ・ 5本柱(電子・薄膜・サーマル・ケミカル・回収)の強化
- ・ 更なる成長分野の追求と新たな柱の構築

持続可能な成長基盤づくり

- ・ 持続可能性と高い適応力を備えた組織づくり
- ・ 重要課題への取り組み

KFK ビジョン2030 の目指す姿

KFK ビジョン2030 の目指す姿

2026/6期

売上高 550億円
経常利益 70億円
ROE 7%
ROIC 5%

前中計 計画値 (億円)

	2026/6期	2027/6期
売上高	710	820
経常利益	130	165

KFK ビジョン2030

売上高 1,500億円
経常利益 200億円
ROE 10%以上
ROIC 8%以上
配当性向※1 25%以上

コア技術の進化・新技術の獲得
成長分野への取組み・新たな事業機会と飛躍

KFKビジョン2030に向け
基盤の強化に加え
非連続な飛躍を実現

前提条件: イリジウム US\$3,925/toz ルテニウム US\$490/toz 為替: ¥146/US\$
貴金属価格の動向によって、上記目標に影響を及ぼす可能性があります

※1 配当性向25%以上を基本としたうえで、当期利益を生まなかった
場合等においては配当方針の見直しを検討します



コア技術の進化・新技術の獲得

コア技術の“進化”で新たな市場を開拓し、高付加価値のビジネスを構築



2030年 成長分野への取組み・新たな事業機会と飛躍

コア技術・新技術を活かし
今までの枠にとらわれず新規成長分野への積極的な進出を図る

新たな事業機会を捉え非連続な飛躍に繋げるための
連携とシナジー

KFKビジョン2030

成長領域
売上高
600億円規模

2026/6期
成長領域
売上高
70億円規模

新たな柱の創出 - 新たな事業機会

光電融合

半導体
高集積化

チップレット

モビリティ

6G通信

グリーン
アンモニア

グリーン
水素

地球外
通信
インフラ

人工
光合成

5本柱の強化 - “創って、造って、売る” 高速回転

売る

創って

造って

5本柱の強化・新たな柱の創出

コア技術に支えられる5本柱を更に強化
成長分野へ取組み、新たな柱を創出する

電子

サーマル

薄膜

リサイクル

ファイン
ケミカル

グリーン社会の
実現

デジタル社会の
さらなる進展

現在地(2025年)

第一ステージ(1968－2000年)

第二ステージ(2001－2020年)

第三ステージ(2021年－)

5本柱の強化: 電子

イリジウム、プラチナのバルク品加工技術を核に、半導体分野で高付加価値製品を創出していく
単結晶育成用イリジウム坩堝は競争環境下でトップシェアを堅持する

パワー半導体



酸化ガリウム単結晶
出典元: 株式会社ノベルクリスタルテクノロジー

- 次世代パワー半導体(窒化ガリウム、酸化ガリウム)基板結晶育成用製品の開発進捗中。今後収益貢献に期待

光通信



- 生成AIの急速発展に伴いデータセンター向け光アイソレーター用結晶育成プラチナ製品の需要増加

SAWフィルタ

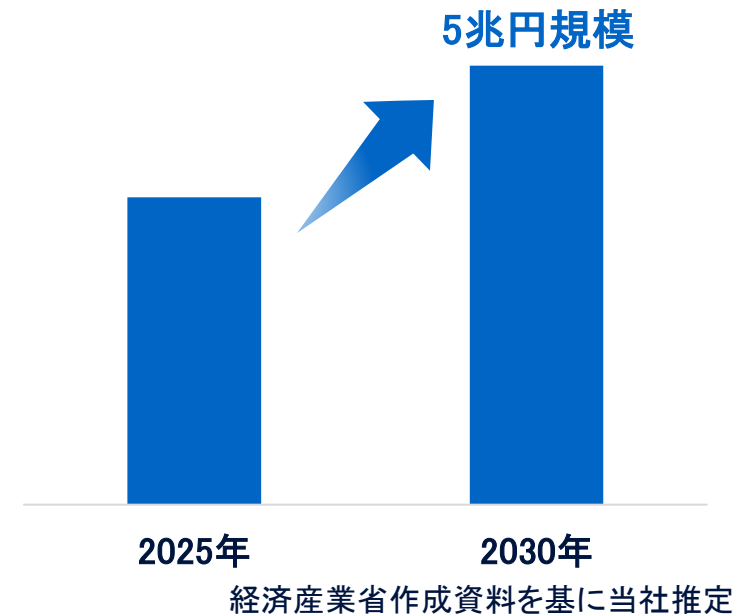


SAW : Surface Acoustic Wave(表面弾性波)

- SAWフィルタで使用する単結晶育成用イリジウム坩堝市場においては、品質(加工技術)、生産効率、原料調達力を通じた差別化によりトップシェアを堅持



パワー半導体市場規模



5本柱の強化: 薄膜

HDD用ターゲットで培ったコア技術(焼結、熔解、高純度化)によりMEMS、半導体分野に新製品を展開

MEMS



BAW : Bulk Acoustic Wave (バルク弾性波)

- BAWデバイス向けアルミスカンジウム(AlSc)ターゲットの本格上市開始
スマートフォンに加え将来的には車載通信、基地局分野でも実用化の可能性
- 資源サプライチェーンに関しては、スカンジウムの戦略的確保を通じて安定供給体制の確立を図る

半導体

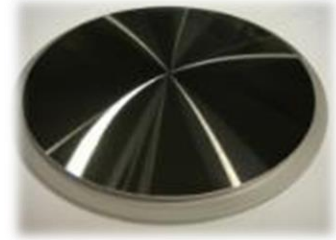


- 生成AIの進化に伴い半導体のさらなる高集積化・低抵抗化が不可欠
- 最先端半導体配線及びEUVマスクブランクス向けルテニウムターゲットを半導体及び製造装置メーカーに提供

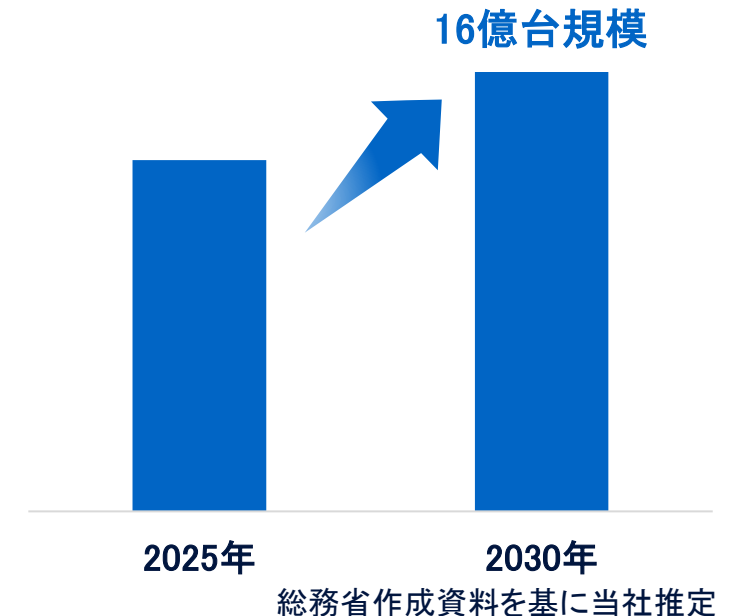
HDD



- 生成AIの急速な普及に伴い、データストレージ需要が拡大。データセンター向けHDD用ルテニウムターゲット需要は2030年頃まで堅調な需要を見込む
- 次世代HDD(HAMR)においては磁気ヘッド用イリジウムターゲットを供給



スマートフォン出荷台数



5本柱の強化: サーマル

主力製品の生産能力の拡張、新規製品の開発強化により半導体市場のさらなる発展に対応

半導体



- AI、スマートデバイス、自動運転等が半導体市場の今後の成長を牽引
主力熱電対製品の生産能力拡張により中長期的市場成長に対応
- 新千歳工場拡張の計画通りの進捗 - 大手半導体製造装置メーカーとの
パートナーシップの元、新規熱管理機器製品の開発強化

パワー半導体



- パワー半導体製造の高温処理工程でのイリジウム-ロジウム熱電対実装に
向けた取り組み強化

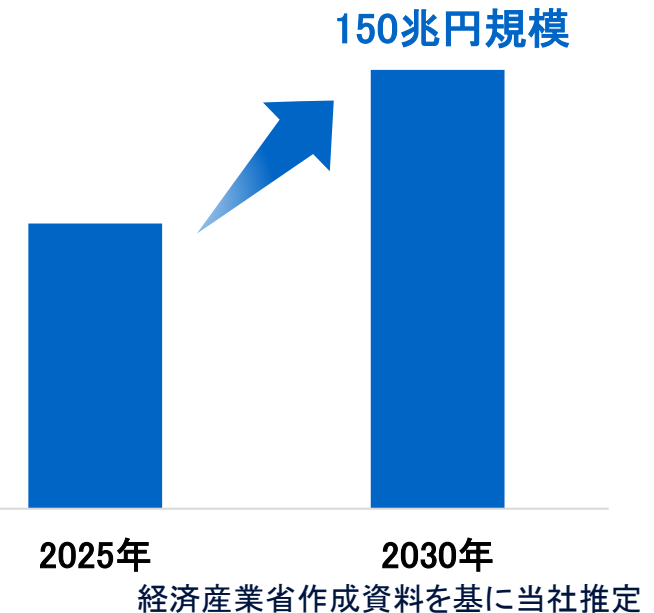
新千歳工場の進捗状況

2026年7月末竣工に向けて建設工事を順調に進捗
人材確保、エンジニアトレーニングを並行して実施

新千歳工場イメージ図



半導体市場規模



5本柱の強化: ファインケミカル・リサイクル

電極・有機EL向け化合物材料は堅調な需要継続を見込む
ナノ合金技術の確立を進め、グリーン市場向け新製品の上市を目指す

水素



- 各国の脱炭素関連政策の変化により、水素関連投資・開発案件に遅れ
- 将来的な市場の本格的な立ち上がりに備えて、水素製造用多元素ナノ合金触媒の開発は着実に推進

モビリティ



- ナノ合金技術を活用して新市場を開拓

有機EL



- 液晶から有機ELディスプレイへのシフトが徐々に進行
- フォルダブル型スマートフォン・VR/AR機器の普及に期待

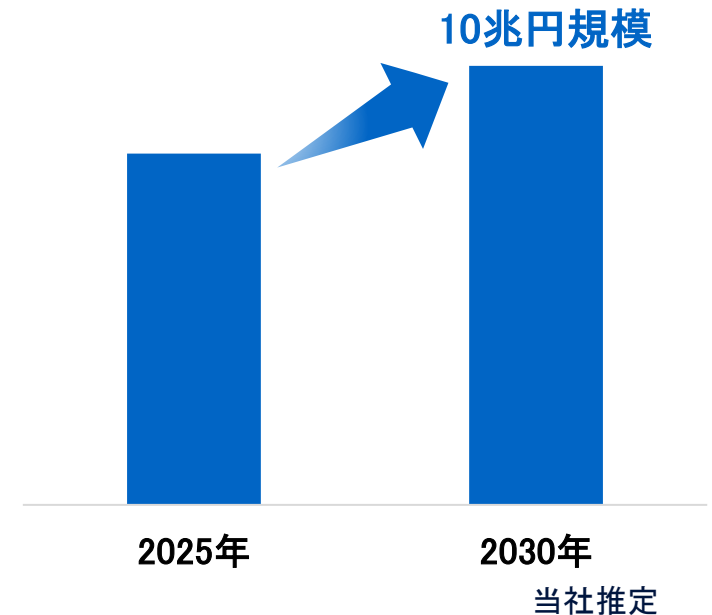
ソーダ向け電極



- ソーダ電解用電極市場は世界の人口増加を背景に堅調な需要を見込む



有機ELディスプレイ市場規模



重要課題特定のプロセス

社内外の有識者と継続的な意見交換を実施し、ステークホルダーの共感・支持が得られる
“重要課題”を特定し、その目標と達成指標を設定

重要課題決定プロセス

社内外の有識者と継続的に意見交換

1. 社会課題の調査



2. 自社の影響分析



3. 候補課題の抽出



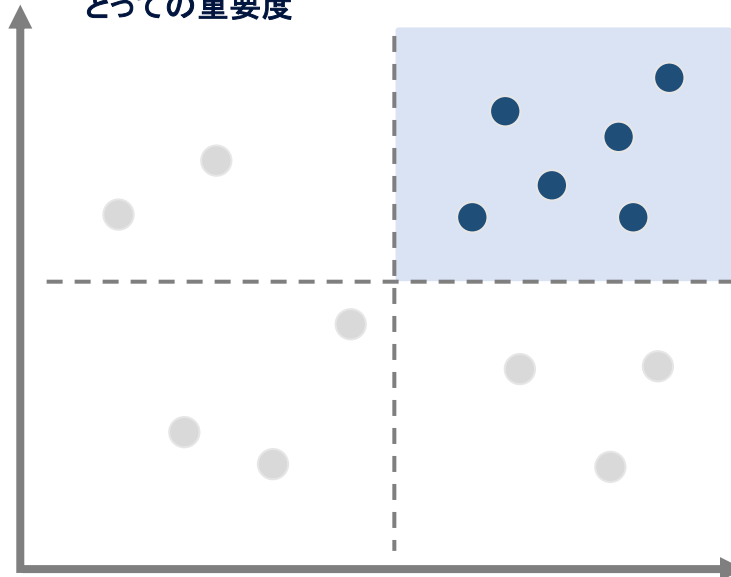
4. 評価と優先順位付け



5. 機関決定

当社及びステークホルダー双方にとって
の重要課題を抽出

ステークホルダーに
とっての重要度



当社にとっての重要度

顧客・サプライヤー・パートナー

信頼
共感
支持

当社が取り組むべき
“重要課題”

誇り
やりがい
熱意

社員

ESGの視点

ガバナンス

サステナビリティ

3つの価値

経済価値

社会価値

環境価値

重要課題の特定と目標設定

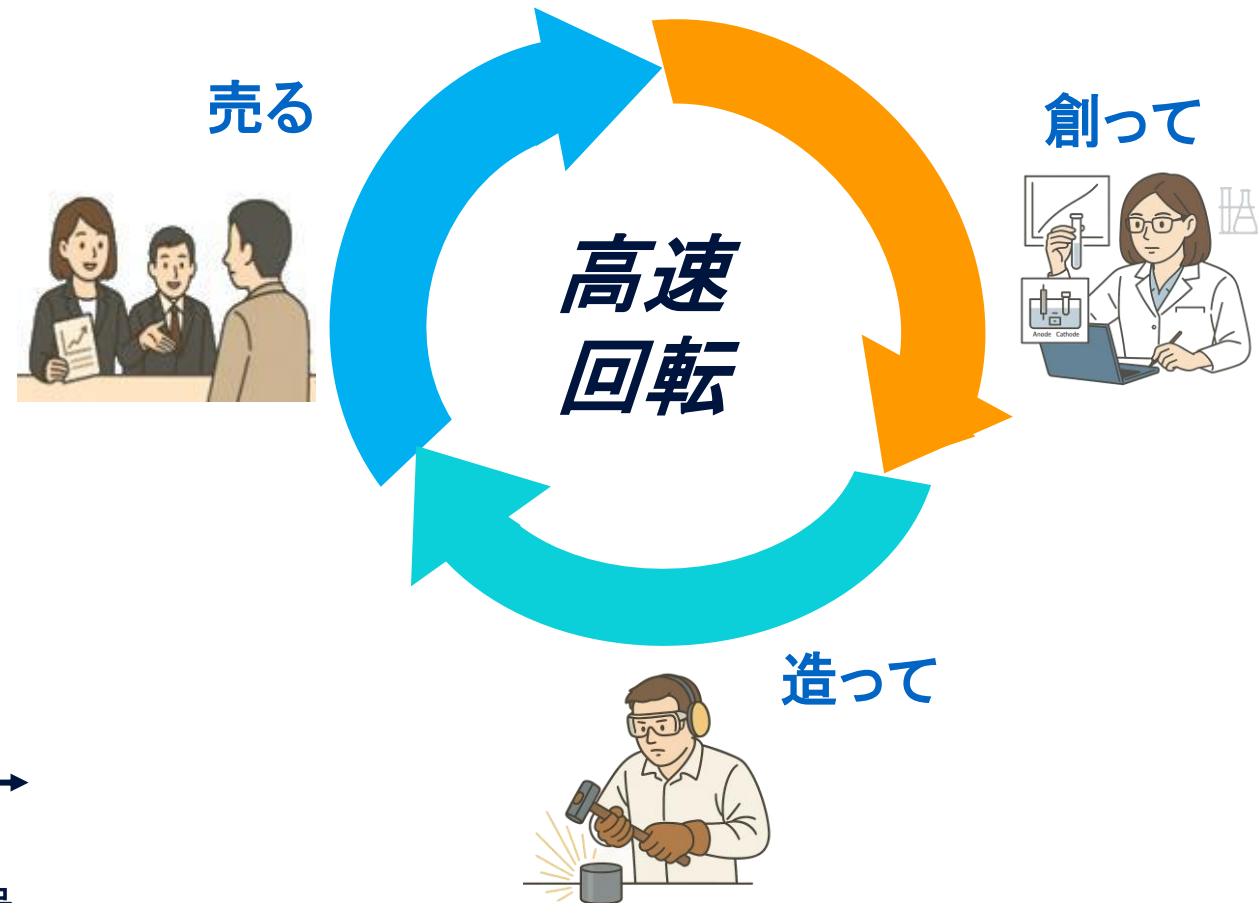
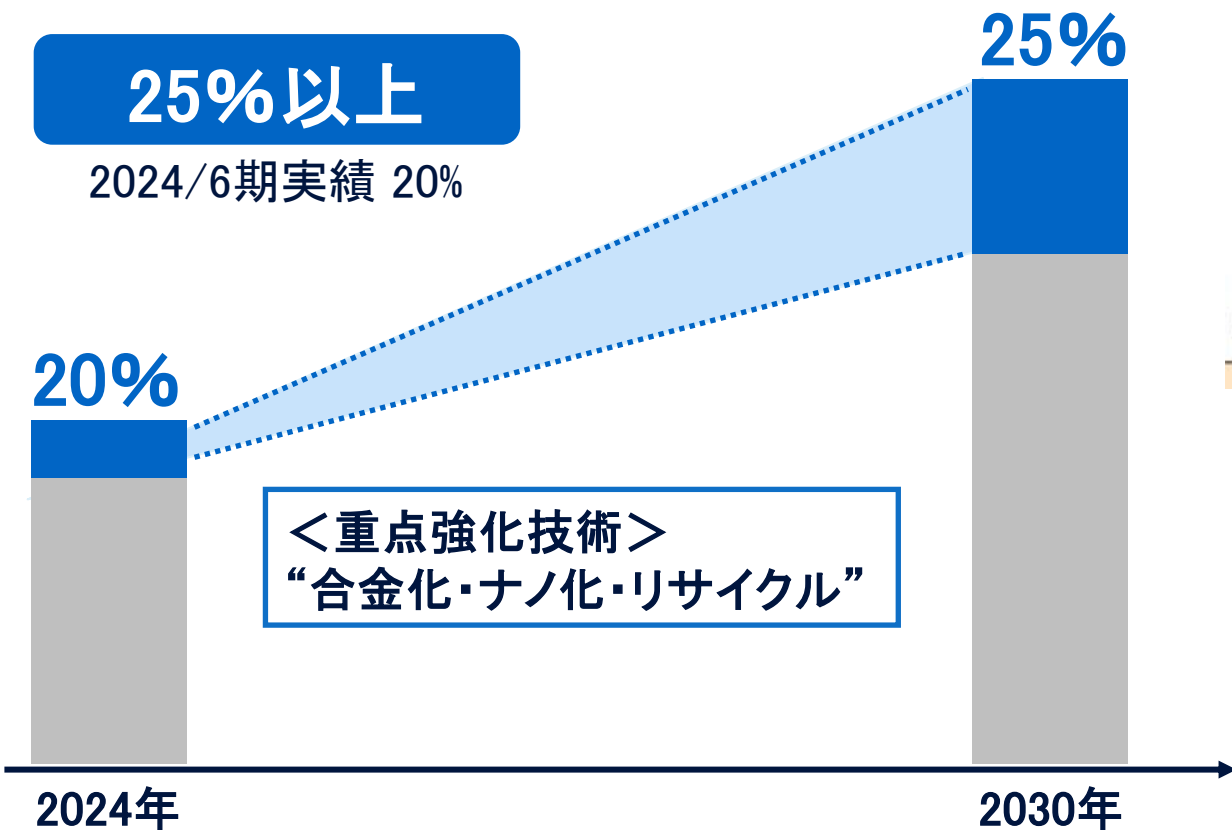
価値組合せ	重要課題	目標・指標(2030/6期)
 ×  社会価値	【1. 新規事業の創出】 イリジウム・ルテニウムで培ったグローバルニッチトップ独自技術の“更なる進化”で高付加価値ビジネスを創出	新技術・製品のものづくり売上比率: 25% 以上(20%)
	【2. 職場環境の整備】 人権を遵守し、多様な人財が働き甲斐を感じる安全・安心な職場環境を構築	(1) 死亡災害・休業災害件数: 0 件(0件) (2) エンゲージメント・ストレスチェック調査の実施(1 回/年)と調査結果を踏まえた改善活動の 継続 (1回/年) (3) 女性管理職比率: 20% 以上(2.3%) (4) 男性育休取得率: 100% (80%)
	【3. 人財育成の強化】 グローバル課題の発掘・解決に挑み続ける人財を育成	(1) 重要スキル・資格の特定と習得推進体制を構築し、社員の 50% が対象スキル・資格の 1 つ以上を取得 (2) 選抜社員対象の重点外部研修プログラム(公募型)の設立し、設立プログラム毎に 1 名以上の人財派遣を実施
 ×  環境価値	【4. 環境保全の推進】 4-1 省エネ・クリーンなものづくり 4-2 カーボンニュートラルに貢献する新製品	(1) CO ₂ 排出量(SCOPE1、2)の低減率: 2023年度比 80% (2) SCOPE3領域のCO ₂ 排出量を 算定 し、低減目標を 設定 (3) 当社製品のカーボンニュートラルへの貢献度を 指標化
	【5. 業務効率化の徹底】 DX化の推進で徹底的な業務効率化を追求	(1) 経済産業省が定めるDX成熟度: レベル 3 (レベル1) (2) 業務のペーパーレス化: 100% (10%) (3) 製造工程のロボット化率: 1,000 台/万人(523台/万人)

重要課題1 新規事業の創出

イリジウム・ルテニウムで培ったグローバルニッチトップ独自技術の
“更なる進化”で高付加価値ビジネスを創出

新技術・製品のものづくり売上比率の向上

“創って、造って、売る”のサイクルを高速化



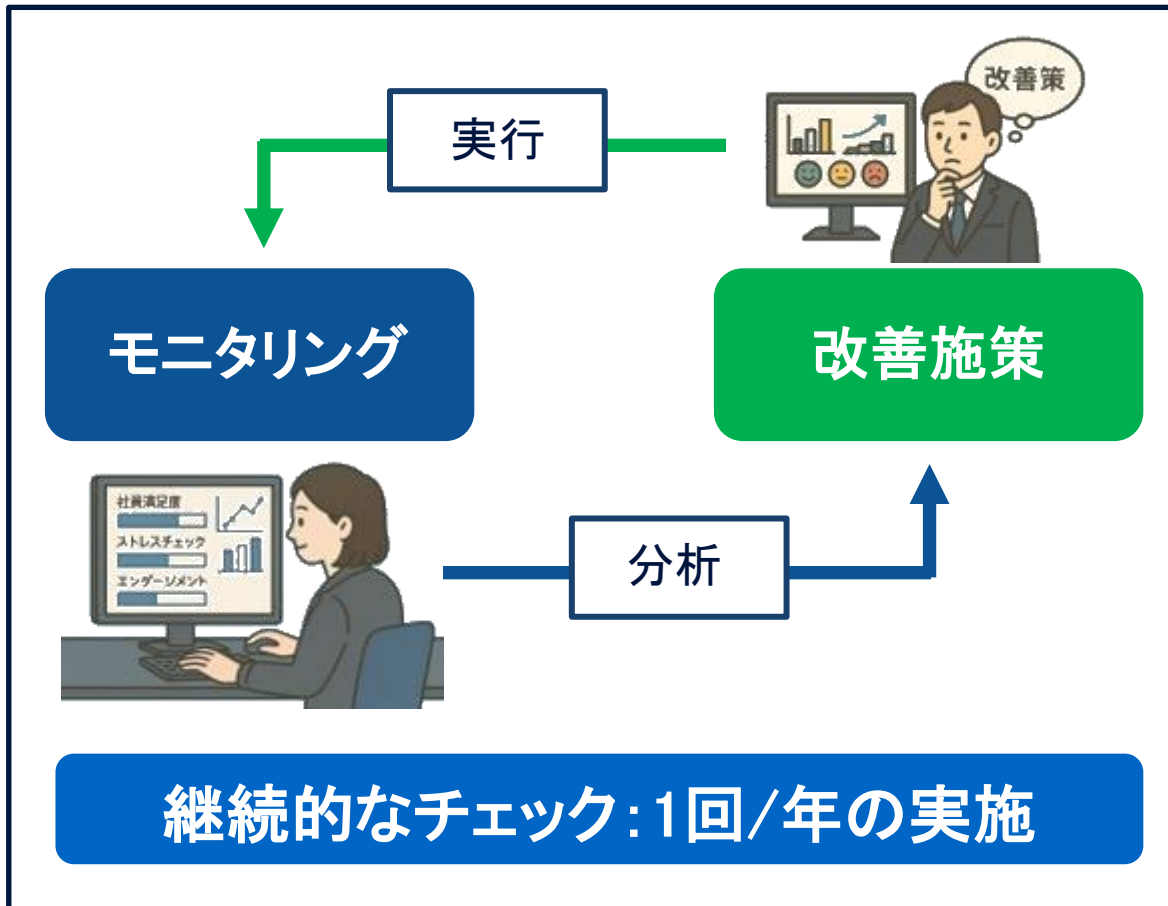
※新技術・製品の定義：開発が終了し、上市してから5年以内の技術および製品

重要課題2 職場環境の整備

人権を遵守し、多様な人材が働きがいを感じる安全・安心な職場環境を構築

死亡・休業災害0日の継続

モニタリング⇔改善サイクルでエンゲージメントを向上



0日

2024/6期実績 0日

女性管理職比率の向上

男性育休取得率の向上



20%以上

2024/6期実績 2.3%



100%

2024/6期実績 80%

重要課題3 人財育成の強化

グローバル課題の発掘・解決に挑み続ける人財を育成

求める人財像

無限の可能性に先見力と創造力に対応



会社が推奨する、もしくは社員が望むスキルの向上について、会社が積極的に支援

新たな教育プログラムの設置で人財力を強化

(1) 全社員対象の基盤教育プログラムの設定と実行

- ① 重要スキル・資格の特定と習得推進体制を構築
- ② 社員の50%が対象スキル・資格の1つ以上を取得

＜対象資格(例)＞

技術(技術士、電気主任技術者、エネルギー管理士、危険物取扱者、機械設計技術者)、IT(MOS、ITパスポート、基本/応用技術者試験、プログラミング)、語学(英検、TOEIC、各国語検定)、会計(簿記)

(2) 選抜社員対象の重点教育プログラムの設立と実行

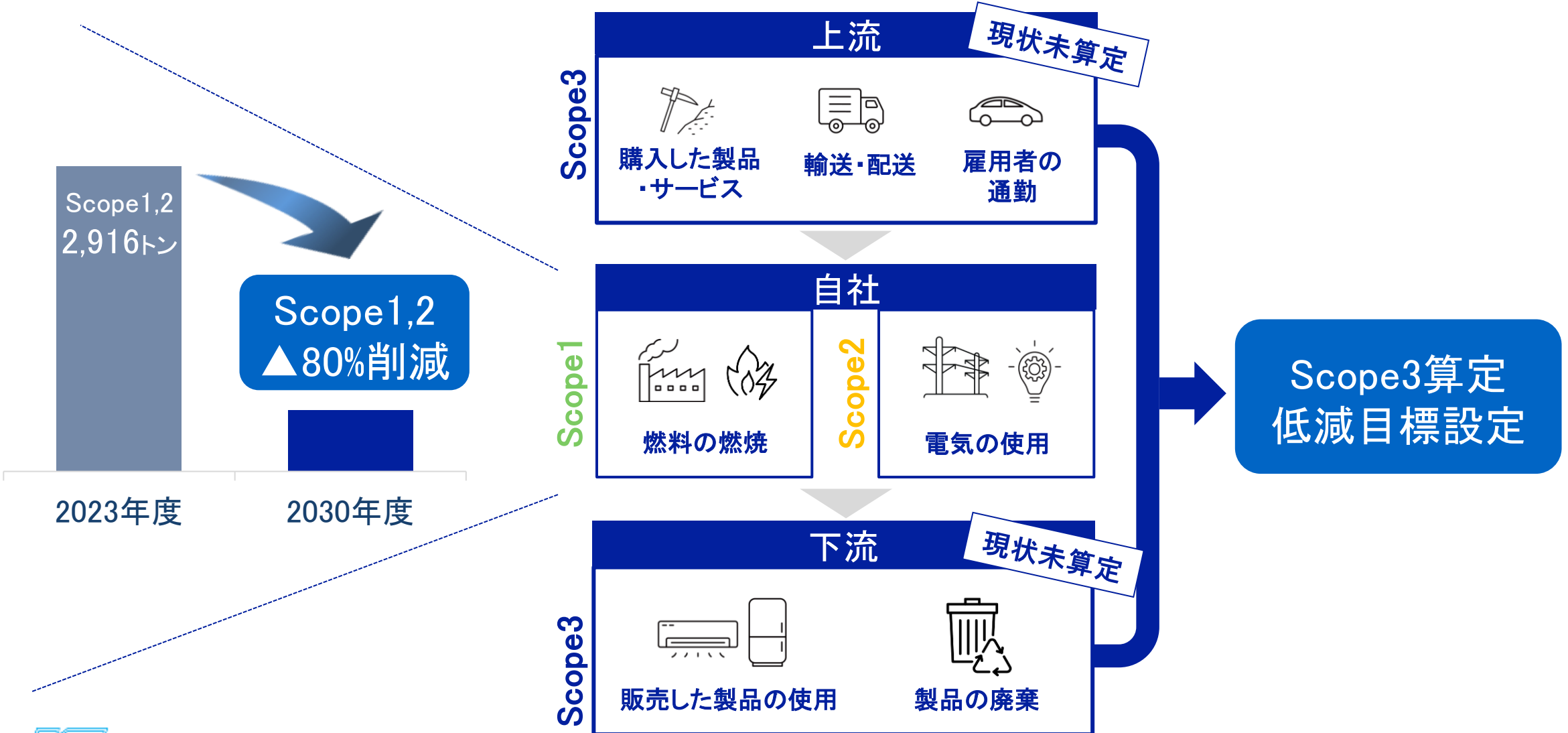
- ① 特別外部研修制度の設立(省庁、大学等外部での業務)
- ② 設立プログラム毎に1名以上の人財派遣を実施

＜対象プログラム(例)＞

ビジネススクール(MBA、MOT)、省庁、大学・研究機関、企業等への出向

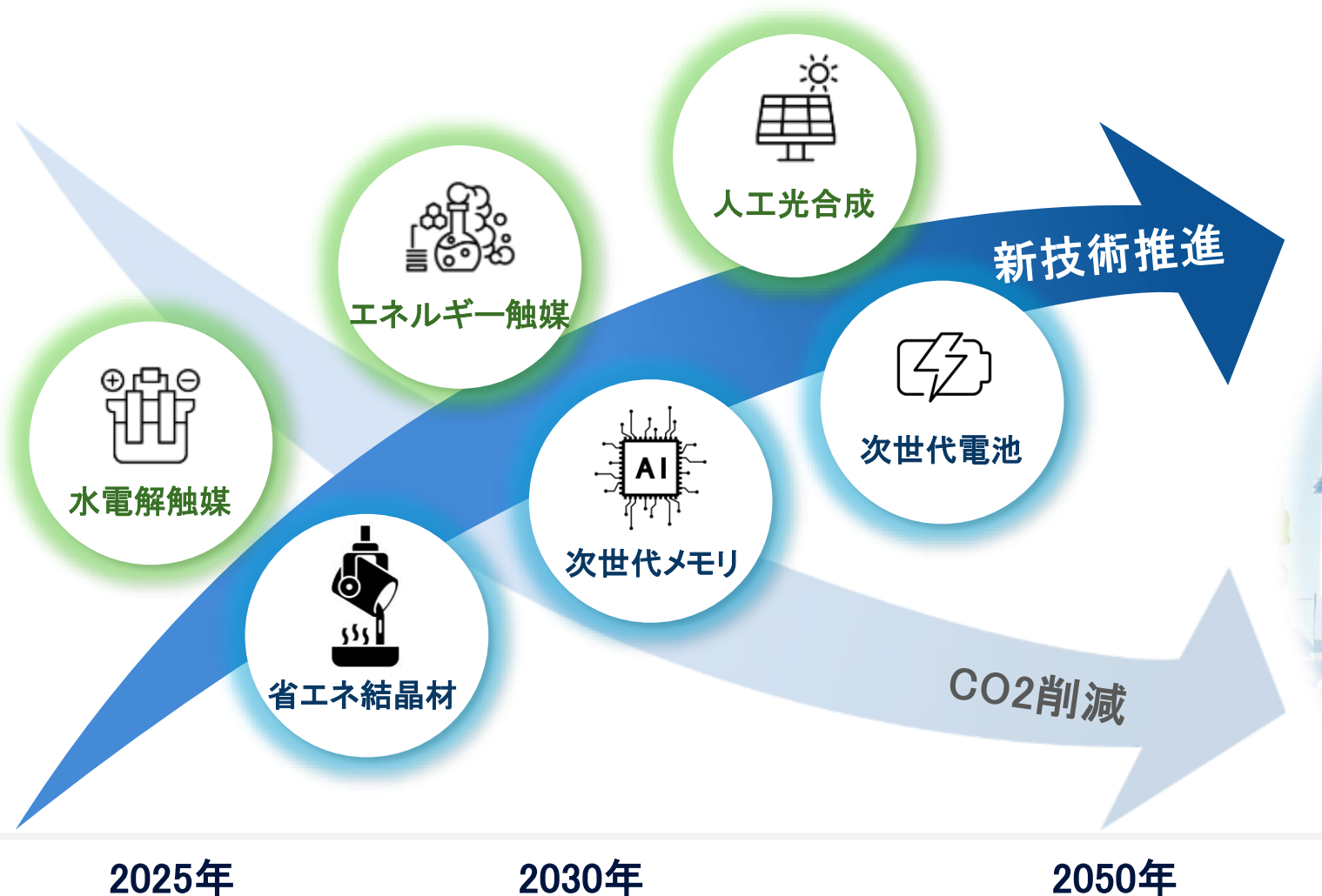
重要課題4-1 環境保全の推進：省エネ・クリーンなものづくり

省エネ・クリーンなものづくりを通じてカーボンニュートラルに貢献



重要課題4-2 環境保全の推進：カーボンニュートラルに貢献する新製品

環境保全に寄与する次世代技術・製品を実用化し、カーボンニュートラルに貢献



カーボンニュートラル社会



重要課題5 業務効率化の徹底

DX化の推進で徹底的な業務効率化を追求

国が定める認定取得でDX化を推進

レベル	状態
5	市場を先導するデジタル企業
4	全社戦略に基づく持続的实施
3	全社戦略に基づく部門横断の推進
2	一部での戦略的な実施
1	一部での散発的な実施
0	未着手

レベル3

2030年



2024年

IT技術の徹底活用によるペーパーレス化の推進



100%

2024/6期実績 10%

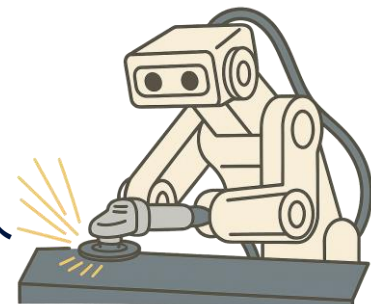


労働人口減少に対応するロボット化の推進



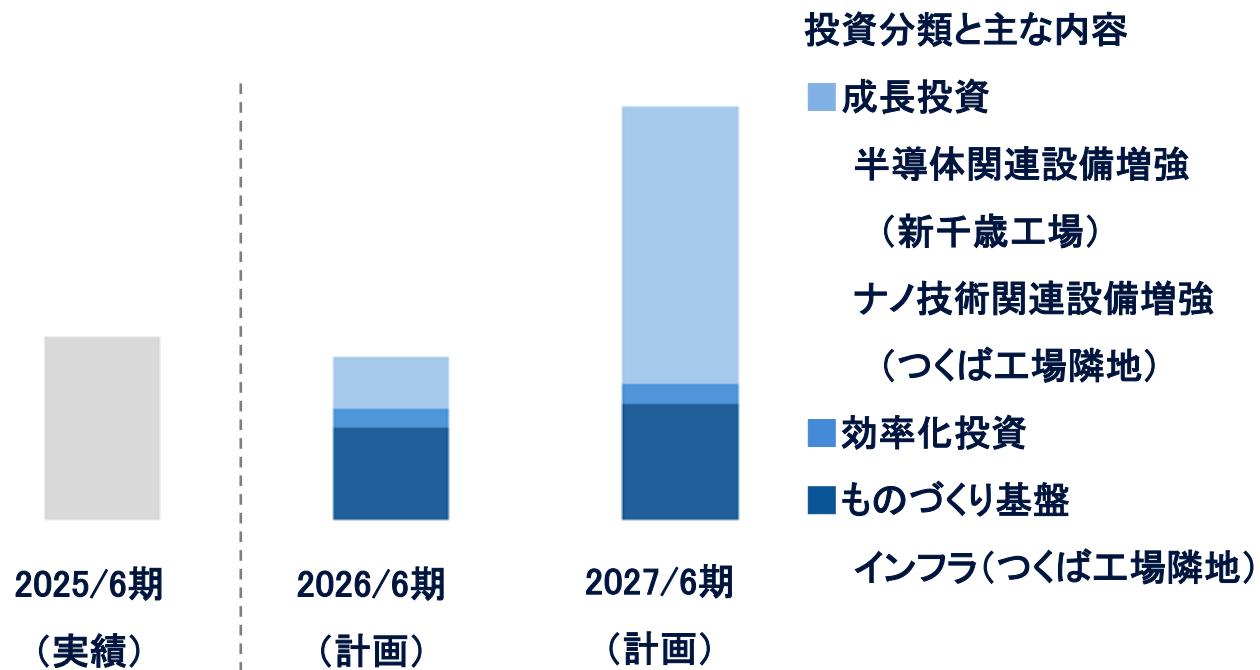
1,000台
/万人

2024/6期実績 523台/万人



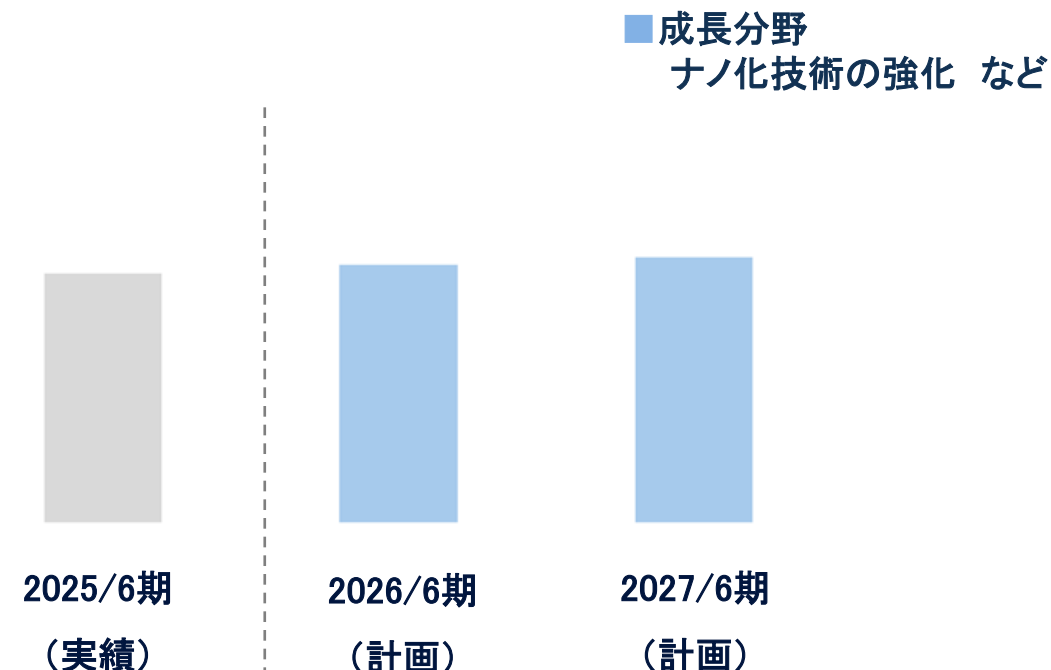
ものづくり成長投資

設備投資額(億円)



今後2年間で100億円規模の設備投資を実施

研究開発費(億円)※



今後2年間で30億円規模の研究開発費

※減価償却費を含む

KFK ビジョン2030 で目指す経営(財務指標)

経常利益

200
億円

ROE

10
%以上

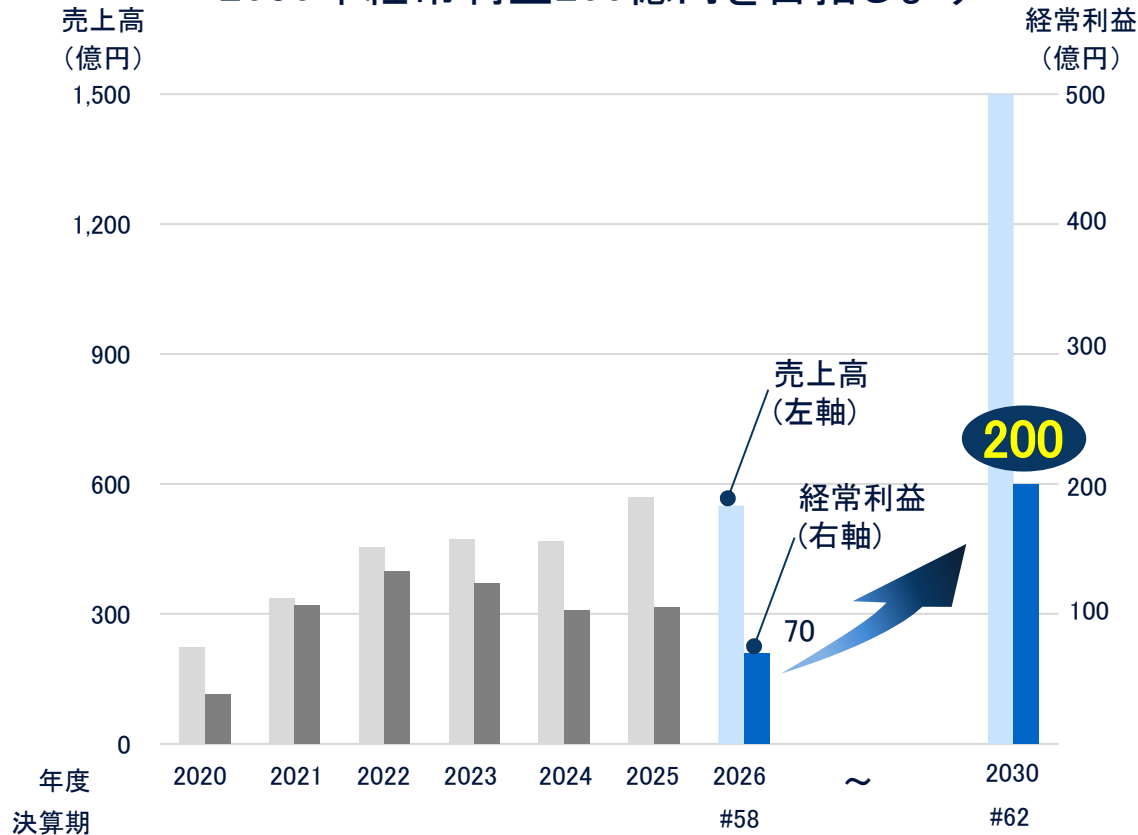
ROIC

8
%以上

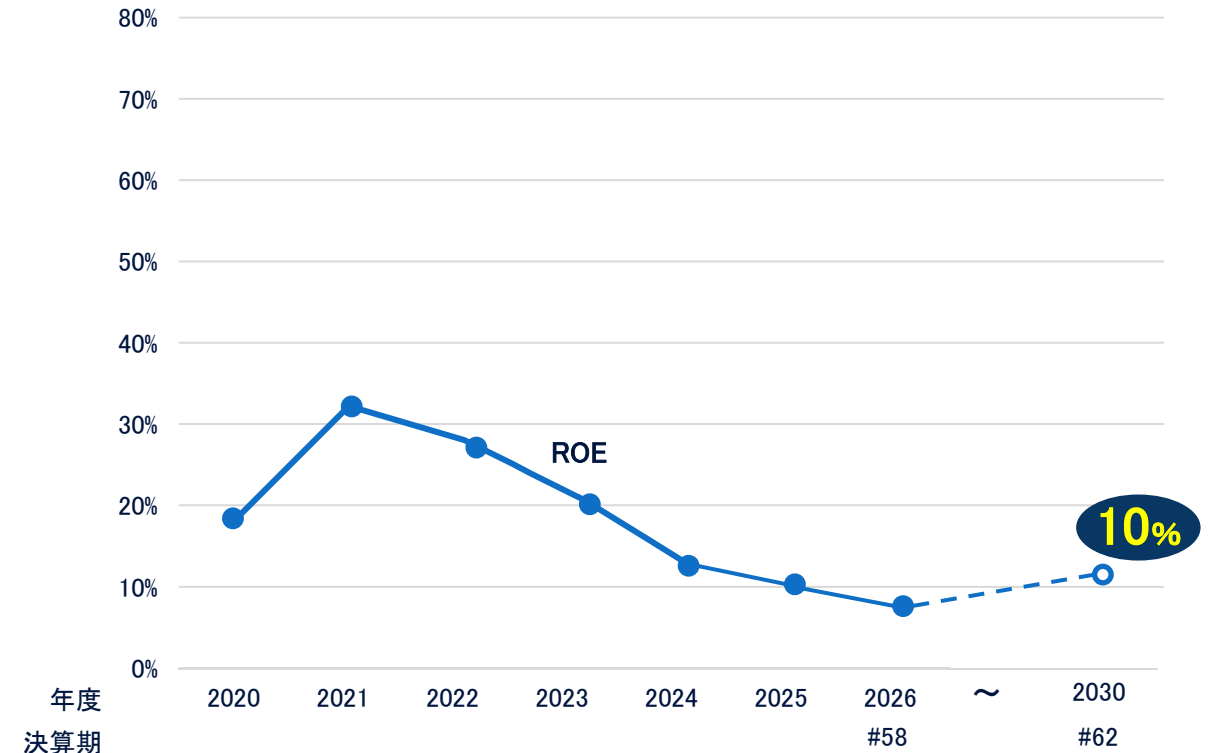
配当性向

25
%以上※1

2030年経常利益200億円を目指します



創出付加価値からの安定配当を目指します

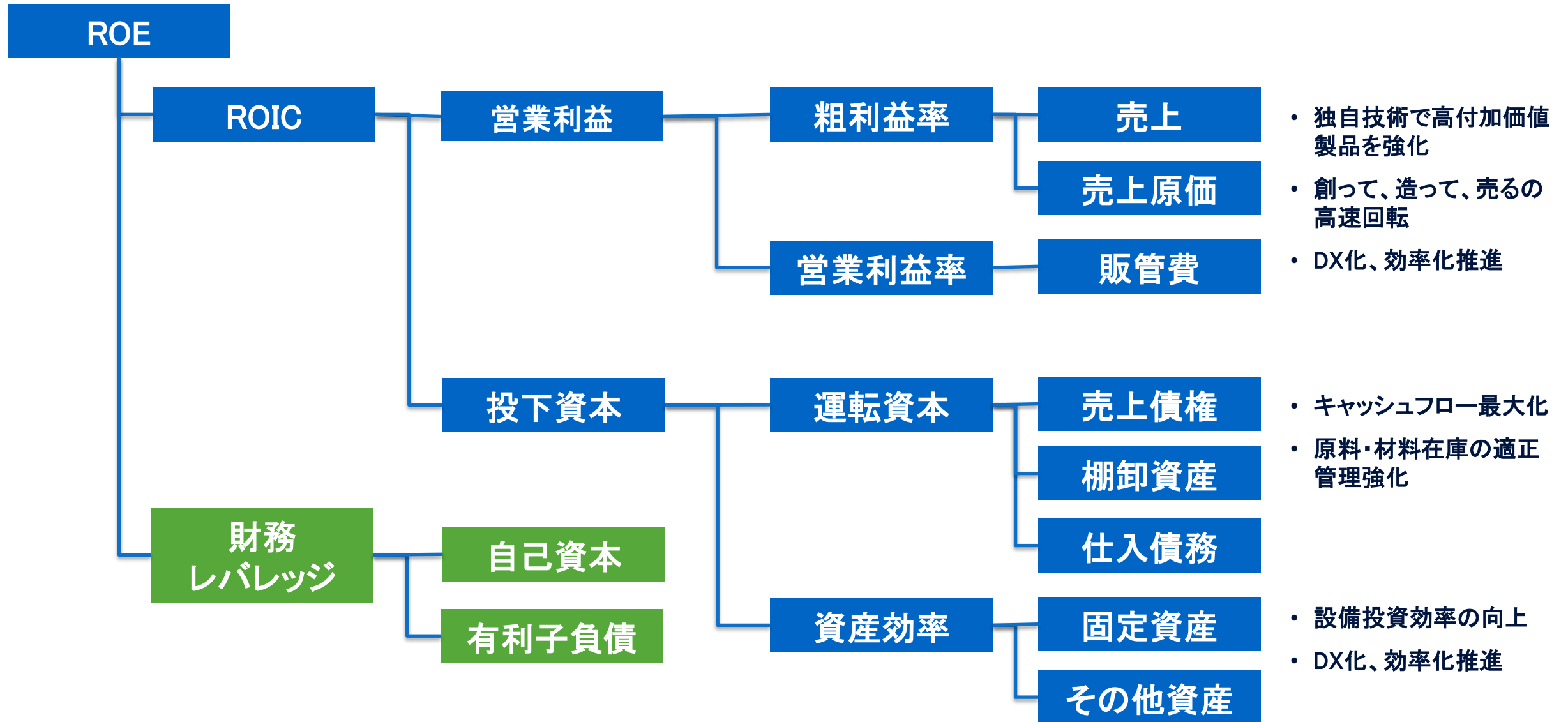


前提条件: イリジウム US\$3,925/toz ルテニウム US\$490/toz 為替: ¥146/US\$
貴金属価格の動向によって、上記目標に影響を及ぼす可能性があります



※1 配当性向25%以上を基本としたうえで、当期利益を生まなかった場合等においては配当方針の見直しを検討します

財務指標 – ROIC改善施策



注記事項



注記事項

本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略などは、当社が現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は、さまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。

IRに関するお問い合わせ

株式会社フルヤ金属

管理本部 総務・CSR部

TEL : +81-3-5977-3377

E-mail : ir@furuyametals.co.jp

Webサイト : <https://www.furuyametals.co.jp/>